

第2回 江戸川区景観計画策定委員会 議事要旨

日 時：平成20年12月8日（月）

午後3時00分～午後5時20分

場 所：江戸川区役所西棟4階第一・二委員会室

1. 開会

・大江委員よりあいさつ

2. 第1回委員会の議事報告

・特になし

3. 江戸川区景観形成に関する現況と課題

1) 資料説明（資料3・4）に対する意見

課題のまとめは（資料4）整理されているが、それに至るまでの個別の分析とをつなげる必要がある。

景観調査の地域区分は都市計画の区分ではなく、街の変遷などの視点から区分すべきである。

資料説明（資料3）にあった、「統一感の中に動きのあるデザイン」に対する詳しい説明がほしい。

2) 「景観」の考え方

風景として写る景観だけが景観ではない。都市で人が生活している「生活景観」（子供が親水公園で水しぶきをあげて遊ぶ姿など）が重要である。

3) 景観計画のポイント

本区の街並みは計画的ではなく、かつ自然発生的に形成されてきたため、特別に問題でもないが、特別ほめるところもない、平凡な街をより良くしていく計画をつくる必要がある。

こういう景観にすべき、という画一的な景観計画（従来の教科書的な景観論）ではなく、景観をきっかけにそれぞれの地域でどうしたらより住みやすい街になるのか、プライドの持てる街になるのかを考え、まとめる。

江戸川区景観計画は、街にある看板の文字や石のデザインなどに対し、区民一人ひとりが美意識を持って提案したり、議論できるようになるのがゴールである。

4) 目指すべき景観形成の方向性

歴史資源や水資源などのある所では、区の骨格的風景として「観賞風景（探勝風景）」を活かし、何も無い所では「生活風景」を育てていく。

一見課題と思えるところが「街らしさ」でもある。路地景観はごちゃごちゃしているが、親しみのある景観でもある。ポイント的な改善や最低限の工夫をすればよい。

多様な価値観を大切に。また、区民の好きな場所から景観をつくっていく。

生活風景を大事にしつつ、規制誘導などのハードからの組立も必要だと思うので、それらを組合せる。

色はこれまで画一的なルールを設定して景観指針をまとめることが多かった。ネガティブチェック（けばけばしい色の除去）という面ではよいが、江戸川区では、色の規制ではなく、地域の特色をだしていくものとして色を考えていきたい。

5) 江戸川区の景観課題

水辺があるだけでもすばらしい景観資源だが、生活風景をつくりだしていくため、生き物にとって棲みよいか、人が入れる水辺なのかも含めて考えることが必要だ。

玉川上水緑道のような木陰が生まれる大きな樹木が少ないので、そういう緑を育てていきたい。オープンスペースとして大中小の公園を整備し、皆がゆっくりできる空間としていく。

今後ミニ開発を増やさないようにしていくことや、建物は与えられた容積を使い切るのではなく、隣りや前面道路との隙間をつくるなど、余裕のある景観をつくる。

ビニールハウスに対して景観が悪いという意見も見られるが、ビニールハウスがあるから農業が維持できているので、そこは評価すべきである。

都市の個性をつくる「農業」、「地場産業」を景観計画に位置づけていく。

街の環境が良くない場合、公共の側に問題を押しつけがちであるが、民間ができることは重要なので、公共と民間がやることを分けて考えることが必要だ。

景観への「関心が低い」というより、今後自分たちの街がどうなるのか「分からない」ということもあるので、区民に街づくりの計画情報を周知していくことが重要である。

6) 景観まちづくり教育について

体験を通じた色のワークショップを行いたい。

郷土史家がまとめた小冊子などを通じて若い人達にも街に興味を持ってもらうことが必要だ。

小中学校単位で、子どもによる地域の魅力や悪い所、直したい所を見つけていけるとよい。

4. 今後の進め方

1) 景観まちづくりワークショップについて

葛西駅前の山岸牧場や、今井街道や新田仲町通りなど、アイデンティティを感じられる要素があると、普通の街にもロマンを感じられる。そういう要素を拾い出すことが必要。

従来の価値観ではなく、住工混在地域も個性的な街、という目線が必要だ。そういう目線で住民一人ひとりがこの街はどうすれば良くなるのか、景観をきっかけに考えることが目的である。

少人数ではなく、浅く広くでもいいので、全区域を把握すべき。

全区民が自分の地域を意識するよう、街の好きなところや嫌いな所などの景観資源の目録やカルテを全地域でつくれるとよい。

2) 景観に関する調査について

区民世論調査などで、地域ごとの愛着度や好きな場所・嫌いな場所を分析できるとよい。

景観調査では、評価性：美しい、醜い、好き、嫌い、潜在性：地としての土地柄（界索性や歴史性など）、アクティビティ：図としての動き（子供の元気さ、商業活動など）の視点でまとめる。

5. 閉会

委員出席状況：1名欠席（土屋委員）